

アトサヌプリ

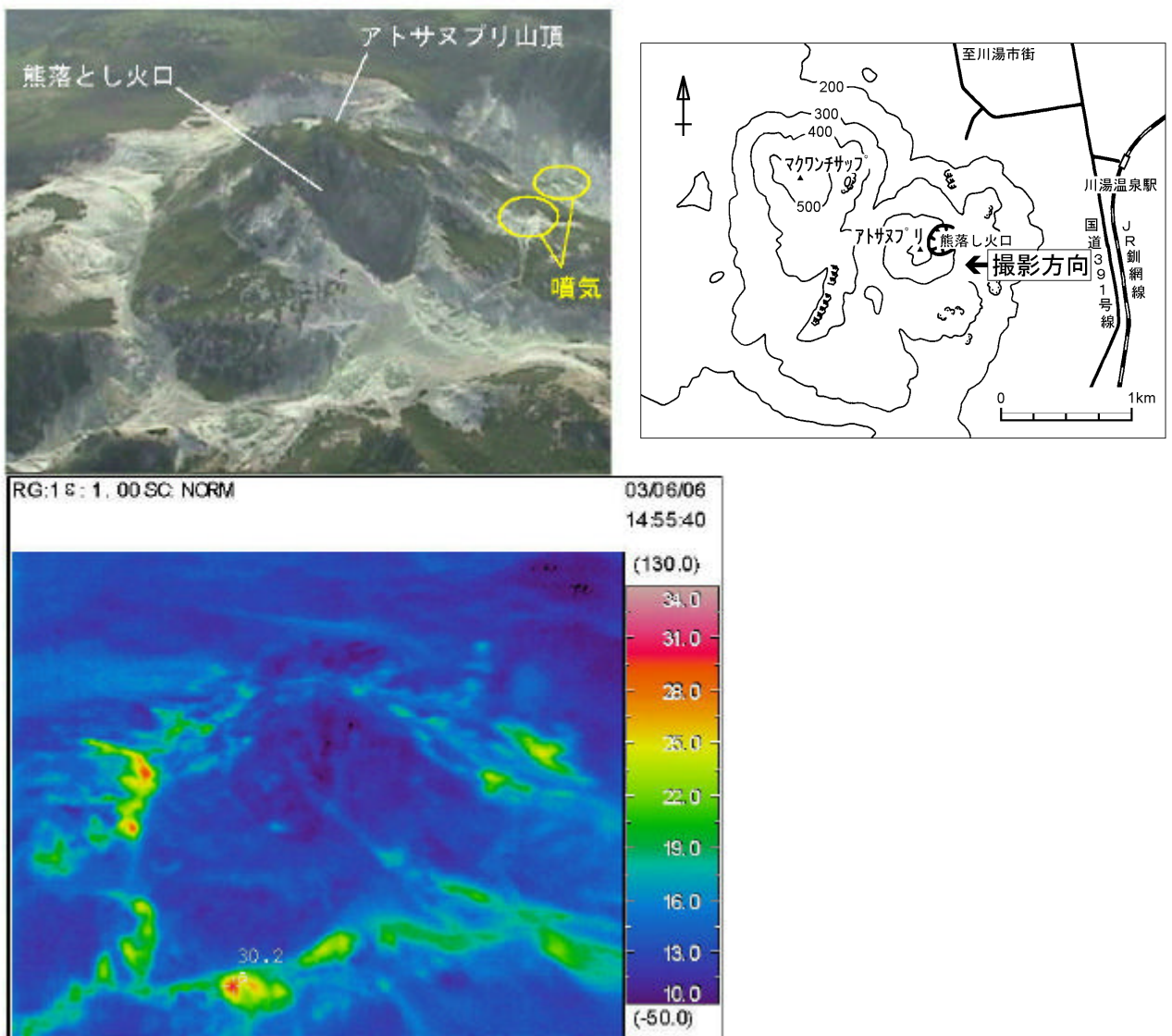
1 概況

溶岩円頂丘の周辺で噴気・地熱活動が継続しています。

2 上空からの観測結果

アトサヌプリは噴出物の調査により数百年前に最後の噴火活動があり、新期溶岩円頂丘山頂部に「熊落とし火口」と呼ばれる直径約 150mの火口が形成されました。札幌管区気象台では1980年、1990年、1994年にアトサヌプリの調査観測を実施しているほか、釧路地方気象台による数回の臨時観測の記録もあります。それによると新期溶岩円頂丘周辺には多数の地熱域が分布しており、最高 120 前後の噴気温度が観測されています。

6月6日に北海道開発局の協力により実施した上空からの観測によると、溶岩円頂丘の周辺で噴気・地熱活動が続いており、赤外熱映像観測では顕著な地熱域が認められました。この状況は1994年当時と大きな変化はありません。



東側上空から見たアトサヌプリの赤外熱映像

(2003年6月6日14時55分、天気薄曇：北海道開発局のヘリコプターから撮影)

赤外熱映像の緑色～赤色で表現されている領域は日射の影響を上回る地熱域。